



平成29年度 学校評価

学校教育目標	重点目標 (中長期的目標)	総合評価				
		A	B	C	改善策向上策	
校訓 「創造・自律・誠実」 (1)一人一人の生徒を尊重する教育の実践 (2)いじめや体罰のない安心安全な学校生活の保障 (3)自発的、自主的な学習態度の育成 (4)個性を生かす進路指導の充実 (5)情操豊かな徳性と自律の精神の養成 (6)心身の鍛練と質実剛健の気風の育成 (7)郷土を愛し、地域に学び、地域に尽くす心の育成 (8)創造の意欲に燃える新たな良き校風の樹立	基本的な生活習慣を確実に身に付けさせ、確かな学力を養うとともに、豊かな心で総合的な生活力を持った生徒を育成する。	個々の進路希望に応じたエリア制は学校評価アンケートで生徒の9割が前向きに捉えている。これに加え、基礎学力定着のための少人数習熟度別授業や、探究的学力を伸ばす授業づくりによって確かな学力養成に努めてきた。更に授業評価アンケートを通して生徒に「授業の五か条」「携帯電話の五か条」を意識させ、生徒自身の学習に向かう姿勢を育成するとともに、授業者の授業改善への動機づけもなされ、ともに学ぶ体制をつくっている。生徒会活動・部活動などを通じて、地域と連携した企画に参加することで、生徒の自主的活動力や地域を考える意識を引き出すことができた。こうした取り組みは、学校評価アンケートや学校評議員会の中でも評価され、今後も継承するとともに、職員のみならず、保護者や地域の方々との関わりの中で、身だしなみや挨拶、マナーなど、基本的な生活習慣の更なる確立を目指したい。				
	今年度の重点目標 ①生徒が個人として尊重され、安全で活力ある学校生活を保障する。	成果と課題 学校全体として、ここ数年落ち着いた雰囲気を維持している。問題行動の発生件数は少なく、生徒は学習、課外活動に前向きに取り組んでいる。また、本校として厳しく対処している暴力(喧嘩)やいじめについては大きな事案は起こっておらず、普段からのきめ細やかな指導が成果を上げている。SNS上でのやりとりによるトラブルが発生したが、生徒が担任に悩みを相談し早期対応ができた。日々変化する情報化社会から派生する問題や危険性を教員が把握し、生徒の指導にあたり、生徒が相談できる環境の整備が必要である。 外部との関わりにおける在校生の安全面での問題はなかったが、今後も校内巡視等を継続し、更に生徒が安全で活力のある学校生活が送られるように指導していきたい。				改善策向上策 今後、さらに安全で活力ある学校生活を送るためにも、生徒会活動・クラブ活動がより活発になっていくことが重要である。そのために学校が地域の方々や連携を取りながら様々な活動に取り組むことができる環境を作っていく必要がある。生徒会活動は執行部が中心となって活動し、またクラブ活動ではそれぞれのクラブが目的をもって活動している。運動部、文化部に限らず、以前に増して活動範囲が広がっている。 以前と比べ、外部との関係で問題が起こることは減少したが、SNS等の普及により生徒たちの交友関係は拡大し、誰でも友だちになることが容易である。問題を未然に防ぐためにも、情報社会に対応できるリテラシーを身につける指導を、学校全体で取り組む必要がある。 学校において、安全面・健康面の管理は必要不可欠である。職員が常に幅広い視野を持ち、生徒・保護者に対応していくことが大切である。
	②基礎学力に習熟し、探究的学力を伸ばす授業づくりをすすめる。	入学時より、数学・英語を中心とした「学び直し」を進め、特に数学・英語では、習熟度別授業によってよりきめ細かな指導を行っている。基礎学力の定着や進学希望者の学力向上が大きな課題であるが、「基礎力診断テスト」を利用して、学力向上の意識を高めるために講演会なども実施した。また、授業については、グループでの調べ学習からプレゼンテーションなど、課題解決能力やコミュニケーション能力を育成する探究型授業が行われた。今後も各教科で更なる授業改革を実施していきたい。				「基礎力診断テスト」の結果を細かく分析し、生徒の弱点を明確にして、基礎的な学力と読解力を向上させる取り組みを行ってきたい。また、習熟度別・エリア別授業を生かして、個々の進路希望実現のための基礎学力向上を図ると共に、探究的学力を身につけ、社会的・職業的に自立につながる授業に取り組んで行きたい。さらに、コンピューターやインターネットなどの情報通信技術を活用したICT教育も検討したい。
	③個性と能力を活かしたキャリア教育と組織的進路指導を実践する。	3年間を見通した進路指導計画である進路チャートに基づいて計画的に指導ができていく。よって近年本校では3年生の進路は比較的早い時期に全員決定しており、今年も1月までにはほぼ全員の進路が決定した。就職においては、採用試験の1次において多くの合格者を出すことができた。進学においては、センター試験受験者の増加や4年制大学の一般受験など、意欲の高い生徒が果敢に挑戦する姿が見られた。一方、準備不足が起因して、進路実現が難しくなる生徒もおり、問題を感じている。				近年進路チャートによる計画的な指導は定着しているため、今後も確実に実施していくとともに、マナトレでの学び直しや進学後の学力不足を補うための補習など、様々な方向から指導する体制をつくる。また保護者懇談会時の進路室解放など、保護者への情報提供を引き続き行い、本人・保護者・担任が三位一体となって、生徒の可能性を最大限に伸ばせるための指導を工夫する。
	④生徒の主体的参加を促し自治活動を展開させることにより、社会性や総合的な生活力を育む。	年間を通じてほぼ継続的に生徒会活動を展開することができており、それらが学校全体の活力やよい雰囲気づくりに繋がり、生徒の主体性・協調性・社会性を育成する手立てともなっている。地域との活動や東北支援活動等を通じ社会参加の意識や自治力の向上が図られつつある。一方、意識や関心の高さの差が生徒によってあり、全ての生徒に指導の狙いを浸透させることが今後の課題である。				自らが学校・社会の構成員であるという自覚と問題意識を生徒に持たせることが、自治能力の育成に不可欠であると考えられるので、生徒会活動や学校行事を通して、常に問題意識をもって学校生活を送るよう指導していく。また、地域とのかかわりをより密にし地域の声を聞く機会を持たせることで、公共心と利他の精神を養い、社会の一員としての当事者意識を高める指導を展開する。
⑤地域社会に根ざし、生徒・保護者・住民参加の開かれた学校づくりを促進する。	全校で取り組んだ活動「花という笑顔を～東北へ～」や地域ボランティア活動において、松川町をはじめとした地域社会と積極的に連携できた。また、優れた地域指導者を招聘しての「社会人講師による授業」においても、昨年度と同様に多方面からの講師の方々に講義をしていただき、生徒の学習意欲および探求活動の向上につながり好評であった。				今後においても、学校案内や学校活動情報誌(フルーツバスケット)およびホームページ等を工夫し、学校の様子を広く地域に発信していく。また、地域からの要望等を聞きながら、開かれた学校づくりを継続していく。さらに、生徒自身の自発的なボランティア活動等を促すと同時に、その受け皿となる町や公民館および企業との連携を深めていく。	